

平成19年度 造血器腫瘍研究会/厚生労働省がん研究助成金「造血器腫瘍における染色体転座関連遺伝子の
基礎的・臨床的研究」班会議プログラム

2007年10月26日(金) - 27日(土)

国立がんセンター国際研究交流会館3F国際会議場(26日)/管理棟1F特別会議室(27日)

26日 Section 1 幹細胞1(座長 北林)

13:00 特別講演1

造血幹細胞を守る冬眠機構---白血病治療への implication

中内啓光(東京大学医科学研究所)

13:50 ヒト幹細胞の in vivo における解析

石川文彦(理化学研究所 免疫アレルギー科学総合研究センター)

14:08 ポリコム複合体1の分子機能と造血幹細胞制御

瀧原義宏(広島大学原爆放射線医科学研究所)

14:36 DNA 損傷修復異常による造血幹細胞機能障害

岩間厚志(千葉大学大学院医学研究院細胞分子医学)

14:54 普遍的幹細胞制御機構(stemness)と白血病

平尾 敦(金沢大学 がん研究所)

15:22 休憩

Section 2 幹細胞2(座長 岩間)

15:37 AML1 機能不全による造血幹細胞動態の変化

市川幹、竹下昌孝、浅井隆司、合山進、仁田英里子、中川正宏、河津正人、千葉滋、小川誠司、黒川峰夫(東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科)

16:00 Stem cell exhaustion and leukemogenesis

大里元美、Bindya Jacob、伊藤嘉明(Institute of Molecular and Cell Biology, Singapore)

16:23 t(2;21)(q11;q22)を有するT-ALLからのAML1-LAF4融合遺伝子の同定

滝 智彦¹、知念良顕^{1,2}、林 泰秀³、谷脇雅史^{1,2}(¹京都府立医科大学分子病態検査医学、²京都府立医科大学血液・腫瘍内科学、³群馬県立小児医療センター)

16:38 MOZを介した白血病幹細胞の制御

北林一生、相川祐規子、相川典子、勝本拓夫、吉田尚美、中原美恵(国立がんセンター研究所・分子腫瘍学部)

17:01 特別講演2

造血幹細胞と白血病

須田年生(慶應義塾大学医学部 発生・分化生物学講座)

懇親会 国立がんセンター病院19F

27日 Section 3 白血病・リンパ腫発症機構1(座長 山本)

9:00 白血病、MPDおよびMDS発症の分子機構の解析

北村俊雄(東京大学医科学研究所細胞療法分野)

9:23 造血と白血病発症におけるHoxa9/Meis1の役割

桑田健、金子慶子、中村卓郎(癌研究所発がん研究部)

9:41 単球系及びMLL遺伝子再構成AMLにおける発症年齢依存的な遺伝子発現

市川 仁(国立がんセンター研究所腫瘍発現解析プロジェクト)

9:59 MLL融合蛋白による発癌にはHoxa9とRas-MAPキナーゼ系の協調作用が重要である

小埜良一¹、滝智彦²、林泰秀³、北村俊雄⁴、野阪哲哉¹(¹三重大医、²京府医大、³群馬県小児医療セ、⁴東大医科研)

10:17 BMTモデルを用いたAID高発現による白血病・リンパ腫の解析

米野由希子、北村俊雄(東京大学医科学研究所細胞療法分野)

10:30 PreB-ALL発症におけるBash変異の協調遺伝子

中村卓郎、檜山綾子、金光、桑田健、後飯塚僚、北村大介(癌研究所発がん研究部)

10:53 休憩

Section 4 白血病・リンパ腫発症機構2 (座長 北村)

- 11:08 GATA-1 機能異常による白血病発症メカニズムの解析
清水律子、山本雅之 (筑波大学人間総合科学研究科、東北大医学系研究科)
- 11:36 FIP1L1/PDGFRα 融合遺伝子導入による慢性好酸球性白血病マウスモデル
山田佳之^{1,2}、Marc E. Rothenberg²、林 泰秀¹ (¹群馬県立小児医療センター、²Cincinnati Children's Hospital Medical Center, U.S.A.)
- 11:54 7 番染色体欠失責任遺伝子候補 Miki による分裂期制御
松井啓隆、麻生博也、稲葉俊哉 (広島大学原爆放射線医科学研究所)
- 12:17 小児 T-ALL/NHL における NOTCH1 と CDC4 遺伝子異常と臨床像
朴明子¹、滝 智彦²、林 泰秀¹ (¹群馬県立小児医療センター 血液腫瘍科、²京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態検査医学)
- 12:35 昼食 (弁当を用意します)

Section 5 AML1/Runx (座長 三谷)

- 13:15 Runx3 過剰発現による T リンパ腫について
大森英孝、河府和義、佐竹正延 (東北大学加齢医学研究所免疫遺伝子制御研究分野)
- 13:33 AML1 と p53 の密接な関係: AML1 は p53 非存在下では oncogene として働く
清水喜美子、相川典子、北林一生 (国立がんセンター研究所・分子腫瘍学部)
- 13:51 Runx1/AML1 protects hematopoietic stem/progenitor cells from oncogenic insult
元田玲奈、大里元美、伊藤嘉明 (Institute of Molecular and Cell Biology, Singapore)
- 14:14 MDS/AML 発症機構における AML1 点変異の中心的役割の解明
原田結花、原田浩徳、丁曄、木村昭郎 (広島大学病院血液内科)
- 14:32 AML1 ゲノム変異による造血器腫瘍発生機構の研究
奥田 司 (京都府立医科大学)
- 14:47 Evi1 と AML1-D171N 変異体は共同してマウス BMT モデルにおける白血病発症を誘導する
渡辺直子、北村俊雄 (東京大学医科学研究所細胞療法分野)
- 15:00 AML1-ETO と協同して白血病の発症に関与するウイルス腫瘍遺伝子 WT1 の機能
尾路 祐介、西田 純幸、保仙 直毅、杉山 治夫 (大阪大学大学院医学系研究科生体情報科学)
- 15:18 AML1 のリン酸化修飾が T 細胞分化および造血発生に及ぼす影響
吉見真弓、合山進、河津正人、中川正宏、浅井隆司、市川幹、黒川峰夫 (東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科)
- 15:41 休憩

Section 6 転写制御因子 (座長 黒川)

- 15:56 PML ボディに局在化する MORC3 による造血異常
井上徳光、赤澤隆、吉田直史、西澤恭子、石崎宏好、岡本三紀、三好淳、志馬寛明 (大阪府立成人病センター研究所・分子遺伝学部門)
- 16:19 t(3;5) 転座の原因因子 NPM, MLF1 による細胞増殖制御
加藤順也 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科)
- 16:37 転写因子 TEL の赤芽球造血に果たす役割
石前峰齊、江口真理子、三谷絹子 (獨協医科大学)
- 16:55 Myb ファミリーによる細胞がん化メカニズムの解析
石井俊輔、山内智弘、石田尾武文、石井知恵 (理化学研究所 筑波研究センター)
- 17:18 血病細胞での Evi1 の特異的なアセチル化部位の同定
山川哲生、森下和広 (宮崎大学医学部機能制御学講座腫瘍生化学分野)
- 17:36 新規 STAT5 抑制因子 CIROS-5 の同定と機能解析
中島秀明 (東京大学医科学研究所 研究拠点形成)
- 17:49 おわりに